学校だより

令和５年２月２８日

３月号

学校教育目標
～生き生き日枝っ子～

横浜市立日枝小学校

「子どもたちの成長は温かな関わりの中に」

校　長　加藤 智敏

子どもたちには、今年度一年間、様々な人との出会いがありました。クラスの仲間、先輩や後輩、地域の方々や授業でお世話になった方々、そして先生たち。どれも子どもたちの成長の上で欠かせない出会いであったのではないかと思います。似た感性をもつ人、自分には無い視点をもつ人、優れた技能や能力をもつ人等々、様々な人と関わる中で自分の力を高めていました。

３年ぶりに行われた「日枝っ子まつり」は、感染症による制限がある中での実施となりましたが、多くの保護者の皆様や学校運営協議会委員の方々に参観いただきました。どの学年の子どもたちも生き生きと活動できており、その輝く姿からは、日枝っ子たちには自分たちの思いや願いを発信する場をつくっていくことが大切であり、そのことが、よりよい育ちにつながることを実感させられるものでした。来年度は、土曜日の開催を予定しており、今度は保護者や地域の方々をはじめ、出会い、関わった方々をお招きして、自分たちが学んだことを発信できるようにしていきたいと思っています。「生き生き日枝っ子」の姿を楽しみにしていただければと思います。

３月を迎え、街中の梅も花を咲かせ始めました。先日、６年生と一緒に訪れた鎌倉では、桜の花もちらほらと見え始めていました。昨年４月の着任時にも校内の桜の開花や若葉の芽吹きについてこちらに書かせていただきましたが、季節の移り変わりとともにあっという間に一年が過ぎようとしていることを実感させられます。卒業を前にする６年生と並んで歩いた今回の鎌倉見学。一緒に旅した日光への修学旅行の頃からすると、本当に大きく成長しました。私の背丈よりも大きくなっている子も随分おり、驚かされました。また、電車を乗り継ぎ、北鎌倉からは徒歩で建長寺、鶴岡八幡宮を訪れ、鎌倉駅から帰校するルートでしたが、乗車中の態度や多数の観光客と行き交う際のマナーも６月からの成長を感じ嬉しく思いました。しかし、何より嬉しかったのは、子どもたちに互いを気遣い合う優しさが変わらずあることでした。支援が必要な時には、そっと手を取って歩いて行く姿に、本校の子どもたちのよさを改めて感じることができました。コロナ禍の中、関わり合うことに制限があった時間を長く過ごした６年生たちですが、温かい関わりを自分たちの中でしっかりと育んでいました。４月からは、５年生が６年生からバトンを受け取ります。進学する６年生に代わって学校をリードしていきます。また、他の学年も新しい学年に進級します。是非とも、日枝っ子のよさとして、この温かな関わり合いができる風土を引き継いでいってほしいと思っています。

この一年、私も校長として地域や関係諸機関の様々な会合に出席させていただきました。そこで感じたのは、まさに「アットホーム」。それは、規模の大小ではなく、関わりの温かさでした。保護者、地域、関係諸機関の皆様が、いつも子どもたちの育ちや学びを支援しようとしていただけること、いつもそっと手を差し伸べてくださることに感謝の気持ちでいっぱいです。この「アットホーム」さは、確実に子どもたちの中に息づいています。私の求める「子どもたちのために人が集える学校」とは、日枝のまちそのものであるのかもしれません。来年度も日枝のまちと同様「アットホーム」な関わりや、温かさに溢れた学校づくりを進めて参ります。

今年度一年、子どもたちの学びや育ちを支えていただき、誠にありがとうございます。来年度も変わらぬご協力とご支援をよろしくお願いいたします。